

平成29年度 南区自立支援連絡協議会 ワーキンググループ活動報告

ワーキンググループ 代表者	メンバー構成	内 容	頻度	前年度の活動の成果	地域課題	今年度の活動予定
南区相談支援連絡会 代表者 安永 忍 (びぼっと相談事業所)	指定特定相談支援事業所 区役所福祉課 保健所 基幹相談支援センター	・情報共有、交流 ・課題の共有 ・事例検討	毎月 開催	・事例検討が定着。 ・高齢者分野の総合事業など、障害分野以外の関連する制度について時事的に研修を行うことができた。 ・精神障害に関する研修で、特性や支援方法の理解を深められた。	・特定相談の相談支援専門員や、ヘルパー、事業所の人材不足。 ・緊急対応の困難さ。 ・事業所の支援の質や、利用者理解 ・医療的ケアが必要な方への支援	・事例検討 ・介護保険情報、いわゆる「8050問題」 ・児童ワーキンググループとの交流 ・精神障害の特性理解 ・地域課題の抽出
福祉関係事業所連絡会 代表 今治 信一郎 (ライフサポートゆたか)	区内障害福祉関係事業所	・自立支援協議会 情報共有 ・事業所間交流 ・課題の検討の場	年5回 程度	・研修等を4回実施。事業所のニーズに沿えるように開催した。 ・全体の会等で事業所交流を開催し、他事業所との交流を深めた。 ・地域理解を深めていくためささえあいまちづくり事業にも参加した。	・人材不足・職員定着 ・障がい者の重度化・高齢化 ・南区は高齢者数が多い特徴があり、高齢の両親と障害の子供という家庭が多い。利用者の今後の生活できる場が見つからない。	・障害理解や技術の習得など研修を行う。 ・アンケートを行い事業所等の課題や悩みなどを抽出する。 ・地域との交流も深められるようささえあいまちづくり事業に参加していく。
要援護者の防災を考える会 代表 濱田 智恵実 (南区手をつなぐ育成会)	南区手をつなぐ育成会 みなみ家族会 当事者団体 福祉関係事業所 身体・知的相談員 総務課防災主査 星崎消防団長 みなみ災害ボランティア 地域住民など	・災害時の各障害における困り事や必要な支援について知る ・上記を冊子等にまとめ、地域の人に知ってもらい、防災訓練等への参加を促し、地域の方に障害児のことを理解してもらい機会とする。	毎月 開催	・前年度は、研修会に民生委員や消防署、いきいき支援センターなどにも参加してもらえ一緒に考える機会ができた事 ・SOSカードがある程度の形になった事 ・事業所の困りごとなど直接消防団や総務課と話ができた事 ・障害児者への関心が進んだこと	・防災訓練に障害当事者、家族の参加が少ない。 ・障害児者の理解が進まない ・地域の方と一緒に防災について考える機会が少ない	・会議は、毎月開催 ・研修は7月は、クロスロード、12月は事業所の災害対策等に関してなどの研修を予定 ・SOSカードの配布及び説明、実際に携帯して防災訓練に参加するなど ・引き続き、地域の方への働きかけや障害理解への啓発活動など
児童の生活を考える会 代表 矢形 進 (南部地域療育センター)	障害児通所支援事業所 南養護学校 港特別支援学校 南区特別支援教育研究会 南区手をつなぐ育成会 南歯科医療センターCW 保健所 その他児童の支援機関	・障害児をめぐる環境の現状確認やその課題を検討する ・福祉関係機関と教育関係機関との意見交換、交流を行い、子どもたちの生活について総合的に考える場とする。	年3回 程度	・ケース検討の開催により、「子どもの生活」を考えるうえで、他職種での意見交換を行った。 ・事業所間で合同イベントを作り上げることにより、若いスタッフの人材育成や交流の機会を持てた。	・子どもを取り巻く多職種の連携。 子どもを中心とした情報共有など。 ・支援者の人材不足。	・ケース検討 年3回 グループワークなど工夫をして、積極的に発言できる機会を作る。多角的に子どもの生活をとらえる力をつける。 ・合同イベントの企画運営 ・相談WGとの交流会
地域福祉力を伸ばそう 代表 北野 容子 (相談支援事業所 親愛の里)	南保健所 相談員 地域活動センタークオーレ 笠寺精治療病院 相談員 南区社会福祉協議会	・地域に向けた心の健康の啓発活動や、講座等の開催 ・障がいや福祉についての学習の場の提供 ・事例検討や現状報告会	随時	・障害者差別解消法の講演を実施 ・こころの健康出前講座をWG活動に位置づけ、3回実施 ・こころの健康についての学習会をサロンで1回実施。また、精神障がいの特性及び対応について、2事業所からの研修依頼あり。	・一般住民の、福祉に興味の無い方々に対して、福祉や障がいについてどう知ってもらおうか。	・打合せや会議を奇数月の第1水曜日に実施 ・一般向けのイベントを1回~2回実施予定 ・こころの健康出前講座のチラシをリニューアルし、地域サロン等への配布を行う予定。
重度障害者入院時コミュニケーション支援 代表 神谷 友之 (びぼっと相談支援事業所) 代表 水島 貴三 (相談支援センター東海福祉)	福祉関係事務所 本人・家族 医療関係	・事例検討を通し、入院時コミュニケーション支援の提案 ・医療関係者との連携 ・入院時コミュニケーションの周知方法の検討	隔月 程度	・南区内の事業所にアンケートを配布。対象者の入院時にどのように対応しているのかなど出てきた課題をまとめた。	・入院時コミュニケーション事業の周知 ・対象者の拡大、支援者の拡大 ・医療機関との連携	・南区内のアンケートをもとにしてつくった2016年度総括を中心に、南区に住む仲間たちが望んでいる制度の案を名古屋市に挙げていきたい。